

# 第1章

## 医学概論

### 1 ライフステージにおける心身の変化と健康課題

この科目の学習は、支援対象者の心身の状況、置かれている環境を、科学的な視点から理解するために必要となります。心身の発達、発育、老化の過程、疾病や障害の程度と状態などについて、医学的な知識を蓄積しておくことで、対象者の心身の変化や変調にいち早く気づいて、専門職と連携して適切な対処を行うことができます。疾病や障害に対する概念は、第二次世界大戦後のWHOの設置、さまざまな民間活動や当事者運動を通し、疾病を敵とみなして克服・征服すること、障害を能力が欠けている不幸で不利なこととする画一的な見方から、共存すること、個性であること、といった見方に変革を遂げました。社会福祉士が、疾病や障害に対し、本人だけでなく、家族関係、家庭環境、ひいては地域の環境の問題点を発見し、残存能力を生かした全人的な支援につなげていくことは、社会福祉士の業務の遂行に不可欠な姿勢です。さらに、社会福祉士の支援は、個人や地域に対する支援とともに、社会全体に対する支援でもあることが求められます。少子化、高齢化、障害者福祉、更生保護など、人生のあらゆる場面に立ち会う社会福祉士にとって、支援活動の土台となる知識として、これらの分野を真摯に学んでいくことが大切です。

#### ア 身体の成長・発達

《成長》は身長や体重の量的な増大、《発達》は機能的な成熟を意味します。成長と発達をあわせて《発育》といいます。《発育》は、身体面の発育と精神面の発育の双方を含みます。

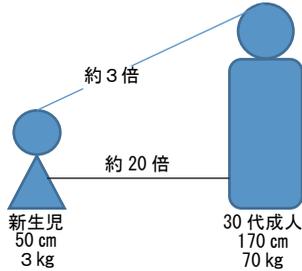
##### (1) 身体の発育

###### ① 身長・体重

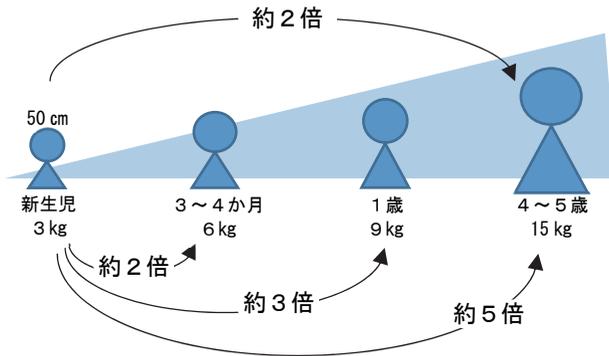
日本人の出生時の身長は約50 cm、体重約3,000 gを標準とし、30代では男性の身長約170 cm、体重は約70 kg、同じく女性は身長約158 cm、体重約53 kgとなり、身長は3倍以上、体重は20倍以上の成長をとげます（厚生労働省『人口動態調査』）。厚生労働省の調査では、身長は1歳で出生時の約1.5倍、4～5歳で約2倍になるとの結果が出ています。体重の増加は

身長に比べて著しく、3～4か月で出生時の約2倍、1年で約3倍、4～5歳では約5倍となります。

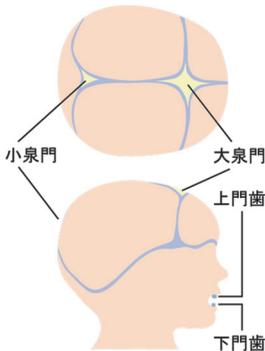
◆身長の伸長



◆身長・体重の増加



② 泉門



乳児の身体の発育の特徴として《泉門》があります。泉門とは、新生児の頭蓋の骨の境い目のことで、左右の頭頂骨と後頭骨の間の三角形を小泉門、左右の前頭骨と左右の頭頂骨の間のひし形を大泉門といいます。小泉門は出生後3か月、大泉門は10か月ごろには閉鎖が始まり、1歳半ごろには完全に閉鎖されます。